

I-344

東京国際空港沖合展開事業ターミナル地区橋梁の色彩計画

運輸省第二港湾建設局横浜調査設計事務所 ○丸山 隆英 横田 弘
川上 泰司 高森 寛

1. はじめに

現在、運輸省では増大する航空輸送需要への対応等を目的として現在の羽田空港の沖合に新しい滑走路及びターミナル等を建設するいわゆる「沖合展開事業」を鋭意実施しているところである。新しい東京国際（羽田）空港ではアクセス手段の一つとして東京湾岸道路が空港の中心を貫くこととなるため、ターミナル機能が当該道路によって東西に分断される。そのため湾岸道路を跨ぎ東西を連絡するための橋梁群が計画され、運輸省第二港湾建設局では、7本の当該橋梁群について景観を考慮にいたった設計を行い、現在建設を行っているところである。

本報告はこれらの橋梁群の色彩の決定にあたっての検討について述べるものである。

2. 景観設計の概要

(1) 景観設計の基本テーマ

景観設計を行うにあたり東京国際空港の目標とすべき姿（基本テーマ）を次のように整理した。

Aシンボル性 B歓迎性 C個性 D現代性 E快適性

(2) ゾーン区分とデザインコンセプト

視覚的なまとまり及び機能的なまとまりに着目して図-2のようにターミナル地区を「センターゾーン」と「ノースゲートゾーン」の2つにゾーン区分した。「センターゾーン」は、ターミナル地区の中央部として、景観的な核心部となる空間である。一方、「ノースゲートゾーン」は、東京方面からの空港への表玄関であり管制塔等が配置された機能的な空間である。

これらの特性に基づき「センターゾーン」では、基本テーマのうち【シンボル性】【個性】【歓迎性】【快適性】を表現していくこととし、「ノースゲートゾーン」では、基本テーマのうち【シンボル性】【歓迎性】【現代性】を表現していくこととした。さらに、個々の橋梁のデザインを決定していくために、ゾーンコンセプトを各々『潤いと憩いのシンボル空間』、『空へいざなうハイテクゲート空間』とした。

(3) 景観構成要素の役割（図-3）

次に各ゾーン内の主な景観構成要素の「景観的役割」を「主役」「脇役」「地」という分類によって明確化し、橋梁群のうち中央南北連絡橋、エアサイド連絡橋、アクセス道路連絡橋をシンボル橋として位置づけた。

図-3
景観的
役割

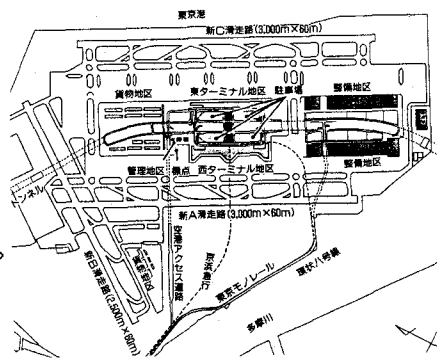
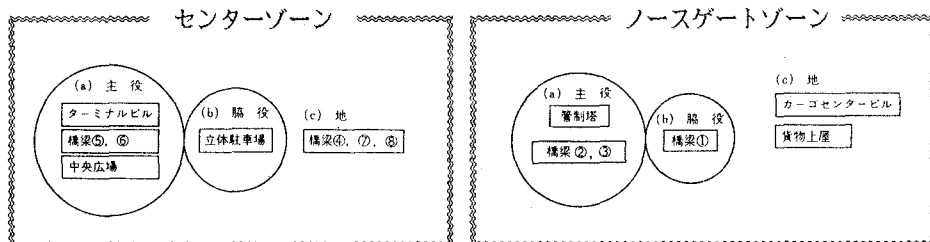


図-1 沖合展開事業概要

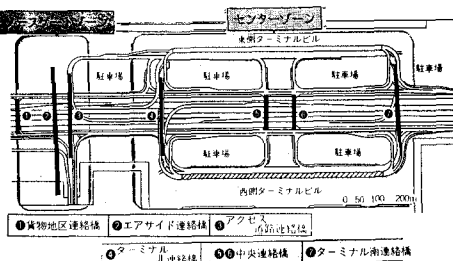


図-2 橋梁の配置及び景観ゾーン区分

3. 色彩計画

（1）色属性（トーン）、イメージカラーの選定

ターミナル地区全体のトーンを揃え、調和性を確保するため、ターミナル地区全体の「基本テーマ」を表現するトーンを選定し、「センターゾーン」については暖色系、「ノースゲートゾーン」については寒色系を用いることにした。そして、「シンボル性を強く表現する色彩」としてホワイト、プライドレッド、プライトブルーを、「周囲との親和性を持たせる色彩」としてベージュ、ブラウン、グレイッシュブルーをイメージカラー候補色として選定した。

（2）各橋梁の色彩計画

各橋梁の色彩の検討にあたっては、カラーシミュレーション等を用い、①ターミナル地区全体の調和、②各ゾーンの識別性、③橋梁の構造美を活かす、④羽田としての独自性の表現という観点から評価を加え、以下のように色彩計画の考え方をまとめた。

ゾーン計画レベルの考え方	識別性	・両ゾーンの識別性を暖色、寒色で表現する。 ・シンボル橋を中心に表現する。
	調和性	・トーンを揃えることによりターミナル地区全体の調和性を表現する。
個別橋梁の考え方	シンボル橋	・主塔、桁にイメージカラーを用いシンボル性を表現 ・桁裏は基本的にグレーとし圧迫感を軽減する
	他の橋梁	・グレーに統一し、シンボル橋を引き立たせる「地」として扱う

以上の検討を踏まえ、各橋梁の色彩を次の考え方にに基づき選定した。

	考え方	決定色
中央南北連絡橋	・潤いと憩いをイメージした色彩として、暖色系の日本的で落ちついた色彩 ・シンボル橋としてモニュメンタルな表現が可能な色彩 ・周囲と調和しつつ、個性を表現できる色彩	主塔 ラセットブラウン 桁、桁裏 ライトグレー
エアサイド連絡橋、アクセス道路連絡橋	・空とハイテクをイメージした、寒色系のクールな色彩 ・シンボル橋として斜張橋の構造美を表現する色彩	主塔 グレイッシュブルー 桁、桁裏 グレイッシュブルー
その他の橋梁	・シンボル橋を引き立たせる「地」として目立たない色彩 ・湾岸道路通過車に圧迫感、煩雑さが生じない色彩	桁、桁裏 ライトグレー

4. おわりに

今日、社会資本に対する景観設計の重要性が叫ばれ、いたるところで景観を考慮にいたれた整備が行われるようになってきている。特に橋梁については顕著である。

東京国際空港沖合展開事業によって架設される橋梁については、一般の景観設計とは一線を画すものである。というのは、ここにおいては各橋梁個別の検討ではなく、7本の橋梁を橋梁群として捉え、一つの面整備の一環として、橋梁ごとの「主役」「脇役」「地」を設定して個別の設計に移行したのである。ここで報告した橋梁の色彩計画の検討に当たっては、東京工業大学中村良夫教授をはじめとした諸先生方のご指導を頂いた。ここに厚く御礼を申し上げる次第である。